

〔赤染衛門集〕あさがほのはなをとくみんとて、つま戸をあけたれば、露いみじうおきたるを、朝がほのとくゆかしさにおきたれば、われよりさきにつゆはるにけり

〔梅花無盡藏雜文〕江戸城留別碧牽牛花詩序

余慕司馬公花庵之碧牽牛、就武陵寓處之東西籬、插數百莖爛熳、長享戊申仲秋、棄地而去、斯花如知、而曉碧蕭條、映分袂、無端爲慰花、作留別之詩、蓋攀東坡留別牡丹之例也、巨福之聖緒、翰墨之志、九牛毛中寔麟之一角也、邇來移几案於武之江城、雖云騷屑之時、與余往還無虛日、投片紙、需一辭、不遑製旅囊、矧可得舒嘯乎、漫寫牽牛之一落索、萬分之一、有今時之王摩詰、則碧尤之體度、請畫爲圖、

〔駿臺雜話二〕朝がほの花一時

此時松永某とて、鈴木氏が道學の友ありけり、其人朝がほの歌とてかたりしが、自からよめる歌にや、又は鈴木氏がよめるにや、とかく兩人の内にてあるべし、

あさがほの花一ときも千とせ經る松にかはらぬこゝろともがな、此歌も意味ふかきやうにおぼへ侍る、昔よりあさがほをよめる歌おほけれども、大かた朝がほのあだなる事をいひて、秋のあはれをそへ、世のはかなきをしらするを趣向とする外は見へず、○中今松永氏が松にかはらぬ心といへるは、それにてはなかるべし、各いかに、おもひ給へる、翁○室は朝に道を聞て夕に死するも可なりと、いへる意とこそ思ひ侍れ、○下

甘藷  
名稱

〔和爾雅七〕菴藷リウキウイモ、紅山アカイモ、蕃薯見ニ于

〔書言字考節用集六〕琉球薯リウキウイモ、薯本名、蕃薯アカイモ

〔物類稱呼三〕甘藷生植、うきういも、畿内にてりうきういもと云、東國にてさつまいもといふ、肥

前にてからいもといふ、享保年中薩州より來る、味ひ美にして其性よろし、又長崎にりうきういも、てうせんいもと稱する物有、是は別種にして蕃薯なり、